

〔雍州府志六土産〕芋魁並芋莖 九條邊專種之、其根一塊形如老茄子、是謂芋頭、煮而食之、其莖謂土芋莖、里芋莖其色青、其味不佳、其根專用之、一種有稱唐芋者、其莖薄紫色也、長大者有至六尺餘者、其味甘而堪食之、其根比里芋則爲劣矣。

〔今昔物語三十一〕佐渡國人爲風被吹寄不知島語第十六

今昔佐渡國ニ有ケル者、數一船ニ乘テ物へ行ケルニ、與中ニシテ俄ニ南ノ風出來テ、船ヲ北様ニ箭ヲ射ルガ如クニ吹キ遣リケレバ、船ノ者共、今ハ限リゾト思テ、艤ヲモ引上テ、只風ニ任セテ行ケルニ、奥ノ方ニ一ノ島ヲ見付テ、構テ彼ノ島ニ著バヤト思ヒケルニ、思ノ如ク其島ニ著ヌ。○中略○中

島ノ者寄來テ云ク、此ノ島ヘ呼ビ可上ケレドモ、上ナバ其ヨ達ノ爲ニ惡キ事ノ有ヌベケレバ也。此レヲ食ヒテ暫ク有ラバ、自然ラ風直リナム、其ノ時ニ本國ニ返リ可行キ也ト云テ、不動ト云フ物ト芋頭ト云フ物トヲ、持來テ食スレバ、糸吉ク食テケリ、不動ト云フ物モ極テ大キ也、芋頭モ例ノヨリモ事ノ外大キニテナム有ケル、此ノ島ニハ此ヲ食物トシテ過ル也トゾ云ケル。

〔徒然草上〕眞乘院に、盛親僧都とてやんごとなき智者ありけり、いもがしらといふものを、このみておほくひけり、談義の座にても、おほきなる鉢にうづだかくもりて、びざもとにをきつゝぐひながら文をもよみけり、煩ふ事あるには、七日二七日など療治とてこもりて、思ふやうによき芋がしらをえらびて、おほく喰ひて、よろづの病をいやしけり、人にくはすることなし、たゞひとりのみぞくひける、きはめてまづしかりけるに、師匠死にざまに錢二百貫と坊ひとつをゆづりたりけるを坊を百貫にうりて、かれこれ三萬疋をいもがしらのあしとさだめて京なる人があづけをきて、十貫づゝとりよせて、芋がしらをともしからずめしけるほどに、又こと用にもちゆる事なくて、其あしみなに成にけり。

〔和漢三才圖會百二柔滑菜〕芋〇中